

令和5年度 協働型学校評価のまとめ  
～「我が家の重点目標」への取組と協働型学校評価アンケートの結果から～

1 本校の協働型学校評価における重点目標について

【令和5年度 協働型学校評価の重点目標】

- ◎ 進んで挨拶や返事ができる
  - 場に応じた言葉遣いができ、正しい行動がとれる
- 目的：「コミュニケーション力の育成・望ましい生活習慣の形成」を通して  
人との関わりを大切にする子供を育て、自己肯定感を育む。

2 成果の検証方法及び目標の達成度について

① 「我が家の重点目標」についての取組

年度始めにご家庭で児童一人一人の目標を設定し、カードに記入していただきました。その後、カードを一度回収して、今年度各家庭において設定した目標を把握し、分類を行いました。分類については「3 今後の課題」をご覧ください。年度末には、家庭での取組と振り返りを記入していただくことで変容を把握するとともに、記入内容から今年度の各家庭における成果を、「A.満足できる改善が見られた」、「B.ある程度の改善が見られた」、「C.あまり変わらない」、「D.評価が下がった」の4段階で分析をさせていただきました。

② 教職員の学校における取組

教職員も、年間を通して行う具体的な取組を年度始めに目標として設定しました。実際に、それぞれの校務分掌や各学年学級で子供たちに働きかけを行い、年度末に振り返りを行いました。

③ 協働型学校評価アンケート

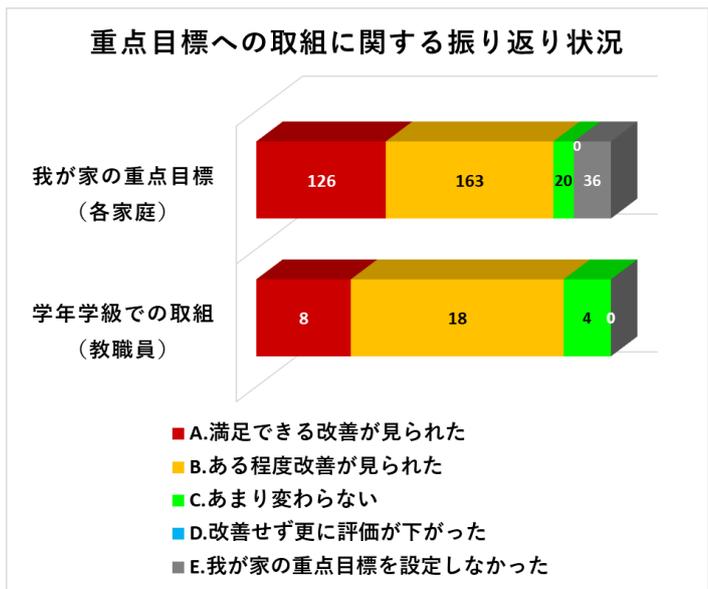
今年度の重点目標の中から、「挨拶」を児童の共通課題として取り上げて学校で取組を進め、児童、保護者、地域、教職員から共通した質問項目のアンケートを年度末に実施しました。

【結果】

「我が家の重点目標」を設定して取り組んだ家庭は全校の90%にのぼり、そのうち、各家庭の振り返りにおける「満足できる改善が見られた、ある程度の改善が見られた」の合計の割合は84%に及びました。

振り返りの記述内容からは、ご家庭によって残された課題も見受けられるものの、多くのご家庭で「子供がよりよく変わった」といった記述が見られました。また、目標達成に向けて、保護者が「率先して子供の前で手本を示した」といった記述もありました。お子さんのよいところと課題にしっかりと目を向け、家庭において年間を通して働き掛けを行っていたことが分かりました。

教職員は、重点目標の中から、「挨拶」のほか、「場に応じた言葉遣い」や「生活習慣」、「正しい行動」など、学年学級の実態に応じて子供たちに身に付けさせたいことを目標として設定し、具体的な手立てを講じてきました。年度末の振り返りでは「満足できる改善が見られた、ある程度の改善が見られた」の合計の割合は87%となりました。



協働型学校評価アンケートは、今年度、重点目標の中から全児童の共通課題として「挨拶」を取り上げ、児童の実態についての意識調査を Google フォームで実施しました。次の5つの質問項目を設けて、児童、保護者、教職員、そして、子供と関わる機会の多い地域の方を対象としました。

- 1) 子供たちは誰に対しても「おはよう」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶ができています。
- 2) 子供たちは「ありがとう」「ごめんね」「どういたしまして」など、人への感謝や謝罪の挨拶ができています。
- 3) 子供たちは自分から進んで挨拶をしている。
- 4) 子供たちは 元気よく、または相手に伝わるように挨拶をしている。
- 5) 子供たちは礼儀としてのお辞儀ができています。

アンケートの結果については3, 4 ページをご覧ください。

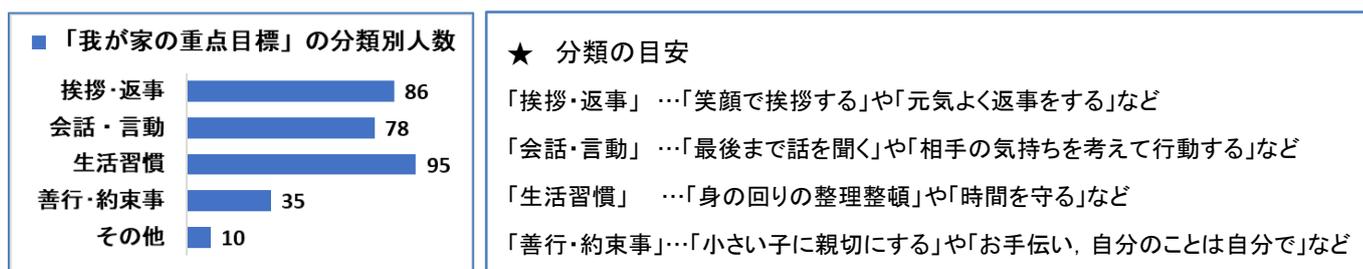
### 3 今年度の取組の成果

今年度も、各ご家庭でお子さんのあるべき姿を具体的に想定し、「我が家の重点目標」を設定して親子でコミュニケーションを図りながら取り組んでいただきました。子供たちの十人十色の実態に即した目標立てを各家庭において行うことで、協働型学校評価の重点目標に対して、一人一人のお子さんに合った具体的な手立てを講じることができたと考えます。

また、学校においては、「人との関わりを大切にすることで、子供たちの自己肯定感を育む」ことを主眼に置き、教職員それぞれが自分の関わる学年学級等の実態に合わせて、改善のための努力を続けてきました。特に、今年度共通課題に据えた「挨拶」については、夏の学校運営協議会において教職員、家庭、地域で「よさ、課題、改善策」を共有することができました。その後も全校での「あいさつの木」づくり（挨拶運動）など、各担任が具体的な手立てを講じて意識的に取り組み、繰り返して指導してきたことにより、一定の成果が得られました。

### 4 今後の課題

過去5年間取り組んできた「我が家の重点目標」については、児童一人一人に合わせた目標や手立てを家庭が意識しやすくなるといったメリットがある一方で、学校・地域と共有し協働していく目標としては、内容が多岐に及んでいました。次の図は、「我が家の重点目標」を★の目安で5項目に分類したものです。



今年度は「挨拶」を児童の共通課題として取り上げてきましたが、「我が家の重点目標」として具体化していただく前に、学校・家庭・地域で協働型学校評価の重点目標としての設定について次年度に向けて整理を行う必要があります。今後、学校運営協議会でいただいたご意見も踏まえ、より具体的な行動目標となるように検討を進めて参ります。

## 協働型学校評価アンケートの結果について

【回答数】 585人（児童 309人、保護者 225人、教職員 18人、地域の方 33人 ※1）

※1 学校運営協議会委員，スクールサポートスタッフ，けやきっこ放課後教室，児童センター

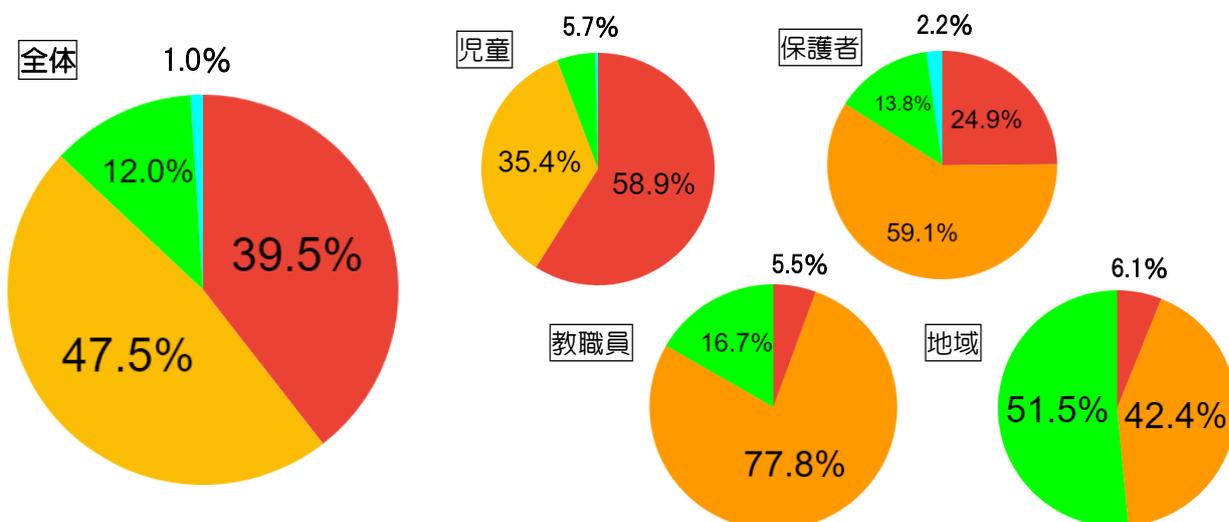
### 【アンケート結果から】

「おはよう」などの基本の挨拶と、「ありがとう」などの気持ちを伝える挨拶については、全体の85%以上が「できている，どちらかといえばできている」と肯定的に捉えています。特に児童は9割を超えていますが，一方で，児童を近くで見守っている地域の方は約半数が「どちらかといえばできていない」と捉えています。

挨拶の仕方について，「自分から進んで行っているか」と「礼儀としてのお辞儀」については，肯定的に捉えている人数は8割に届きませんでした。特に「お辞儀」については子供たち自身も「できていない」と捉えていた児童が一定数いました。また，子供たちが「進んで」行っているかについては，子供の約半数が「できている」と考えているのに対し，大人側はそう捉えておらず，意識や捉え方に差があることが分かりました。

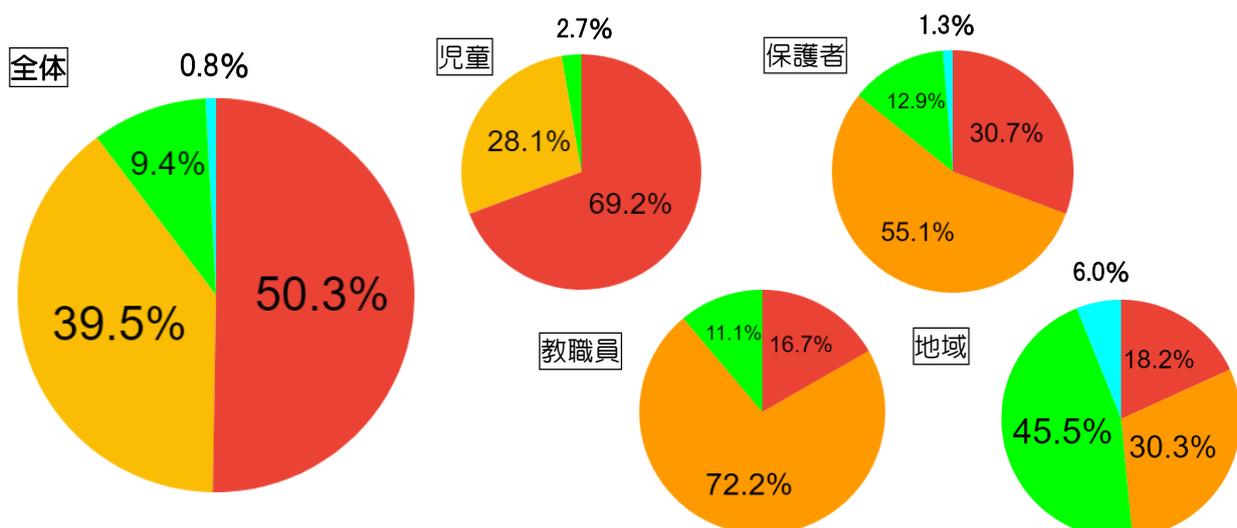
### ① 子供たちは誰に対しても「おはよう」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶ができている。

● できている ● どちらかといえばできている ● どちらかといえばできていない ● できていない



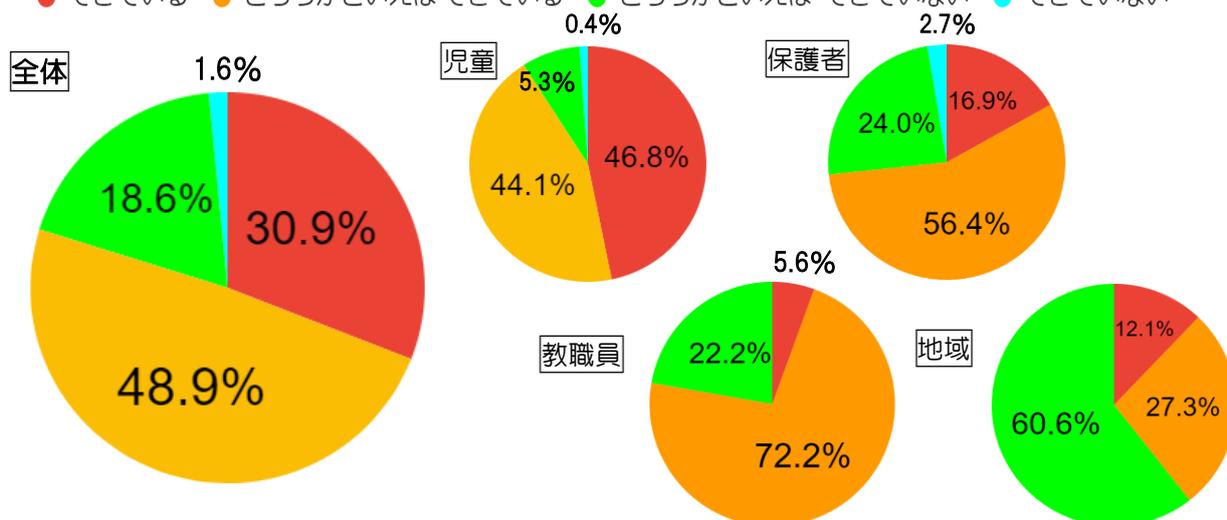
### ② 子供たちは「ありがとう」「ごめんね」「どういたしまして」など，人への感謝や謝罪の挨拶ができている。

● できている ● どちらかといえばできている ● どちらかといえばできていない ● できていない



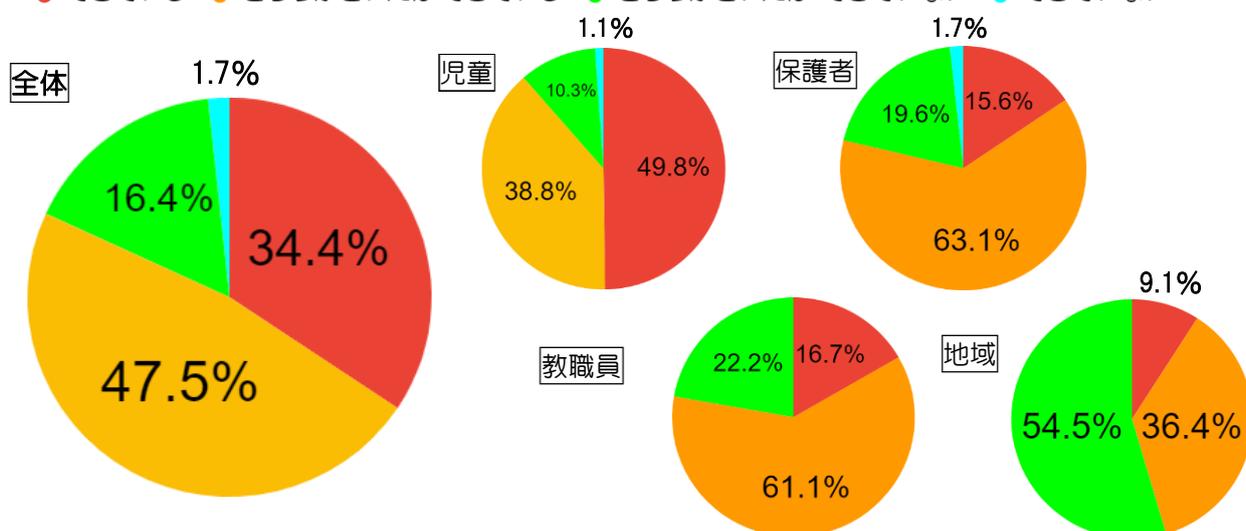
③ 子供たちは自分から進んで挨拶をしている。

● できている ● どちらかといえばできている ● どちらかといえばできていない ● できていない



④ 子供たちは 元気よく、または相手に伝わるように挨拶をしている。

● できている ● どちらかといえばできている ● どちらかといえばできていない ● できていない



⑤ 子供たちは礼儀としてのお辞儀ができている。

● できている ● どちらかといえばできている ● どちらかといえばできていない ● できていない

